

君津製鉄所 品質管理部 薄板管理グループ マネジャー

内田 智史 (2006年入社、応用化学専攻)

お客様一品ごとの品質管理を徹底し、グローバル化を支えたい



化学に加えて、材料や電気など複合的観点から超伝導材料の特性向上に取り組んだ学生時代。社会に役立つものをつくりたいと考える中で、鉄という基礎素材で、世界を舞台に戦う新日鉄に可能性を感じて入社を決めた。

「現象を推定し仮説を立て、実験により実証・改善する研究開発の手法や考え方は、新日鉄の研究・操業現場で活かせると思います。また高い能力が求められるからこそ、挑戦しがいがあると感じました」

最初の配属は君津製鉄所薄板部メッキ技術グループ。建材や家電用の溶融亜鉛めっき鋼板の製造ライン(CGL)を担当した。初めて目にする設備や機械に四苦八苦しながらも、現場と一体となり生産性・品質・コストの最適化に取り組み、4年目には製造難易度の高い自動車鋼板専用CGLの操業と設備の改善も行った。

その経験を活かし、2011年4月からは品質管理部で溶融亜鉛めっき鋼板の品質設計を担当する。工程・成分設計を最適化する品質設計の業務は、また一から勉強が必要だったが、関係部門と協力しながら、硬くかつ加工しやすいといった特性が要求される高強度鋼板(ハイテン)の製造バラつき低減に取り組み、生産性向上と品質安定化を実現した。2012年1月からは自動車メーカーに対し

する技術サービスも担当。お客様の要望を肌で感じながら品質設計に反映するように、業務に取り組んでいる。

「お客様のグローバル展開が進み自動車鋼板の要求品質が高度化する中で、本社、製造、研究部門など社内の連携がますます重要になっていると実感しています。社内にはいろいろなアイデアがあり、部門間で緊密に協力すれば問題解決の可能性が広がります。今後は、当所溶融めっき製品の品質管理マネジャーとして、先頭に立ってさらなる品質向上に挑戦し、当社のグローバル化に貢献していきたいですね」



プレス成形された自動車外板の例